

窓辺

富士山

宮地 良樹

静岡県人にとって富士山は霊峰とはいえ、そこにあるのが当たり前で、ほぼ日常に埋没した存在でしょう。高校生まで日々、富士山が視野の一角を占めていた私にとっても同様で、「仰ぐ芙蓉の嶺高し」(中学校の生徒会の歌)、「芙蓉のかげを水にくむ」(高校の逍遙歌)など口ずさんでいたもの、ことさら富士山を仰ぎ見ようという動機には乏しいものがありました。

しかし、静岡を離れて「身」は、意外なほどきれいな富士山を拝める日が少ないことでした。朝一番で富士山がくっきり見えると心が洗われ、すがすがしい気分になります。加齢とともに静岡県人の血が騒ぐのか、ますます富士山に耽溺し、富士山世界遺産センター、粟ヶ岳山頂、ふじのくに茶の都ミュージアム、日本平夢テラスなどにも足を運んだほどもです。

私のおきのもう一つの富士山ビューポイントは、新幹線で用宗を過ぎたあたりから安倍川を渡るまでの間に、新幹線の右側に遠く富士山が望める一瞬です。

静岡社会健康医学
大学院 大学長